

2022年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
実習・演習 3 (MA)											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	180	単位	6
担当教員	阿部雄太・ジミー寺川・尾崎美徳・裴輪直子			実務経験	有	職種	MAエンジニア				
担当教員紹介											
ポストプロダクションや音響効果会社を経てフリーに転向。現在も現役でバラエティ・CM・ミュージックビデオなどを手掛けるエンジニアとして従事している。											
授業概要											
放送業界を目指す学生の為の基礎実技能力、応用力を伸ばす目的で行う。放送業界の仕組みを理解し、作品制作の過程を実際に体験することで、世の中に出ている作品により深い興味を持ち、研究していくことが目的である。											
到達目標											
放送業界でのProTools（ソフトウェア）の使い方、作品の音響制作についての基礎知識を養い、企業に入ってから活動するために必要な能力を具体的にイメージすること、社会や組織で協働することの重要性を理解することなどができるようになることを目標にしている。											
授業方法											
この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。映像作品に対して音響効果、選曲、整音、ミキサーなどの役割を決めグループで1作品を完成させる。役割ごとの作業は個人で行う。撮影から編集、MAを通して放送業界の在り方を理解すること。											
成績評価方法											
試験・課題	60%	試験と課題を総合的に評価する									
小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する									
成果発表	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する									
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、実習中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。グループ作業に於いて積極的ではない学生に対して、社会に出た際の協働の必要性を伝え、積極的な参加を促すことが必要となる。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
必要に応じて適宜資料を配布する											
回数	授業計画										
第1回	オリエンテーション（概要説明、及び講師紹介）：実習概要説明										
第2回	効果音 フォーリー制作1：フォーリーに於けるマイクの選定										
第3回	効果音 フォーリー制作2：フォーリーに於ける収録の定義を理解すること										
第4回	ライブラリー制作：効果音のライブラリーに於ける定義を理解すること										
第5回	作品制作1 5分バラエティ番組（整音、音楽・効果音付け1）：バラエティ番組の音声データの展開方法を理解すること										

2022年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
実習・演習 3 (MA)	
第6回	作品制作1 5分バラエティ番組（整音、音楽・効果音付け2）：作品の内容に沿った音楽、効果音の選定ができること
第7回	作品制作1 5分バラエティ番組（ナレーション収録、整音）：ナレーション収録に於ける機材セッティングが出来ること。
第8回	作品制作1 5分バラエティ番組（Mix）：全ての素材をどのようにMixすれば聞きやすい音が作れるか理解すること。 放送基準の音量に収めることが出来ること。
第9回	撮影実習：撮影に於けるカメラ、照明、音声の定義を理解すること。使用することができる。
第10回	撮影素材を用いた編集 1：プレミアの基本的な使い方を理解すること
第11回	撮影素材を用いた編集 2：プレミアの応用的な使い方、アフターエフェクトを用いたデータ作成が出来ること
第12回	作品制作2 Web用短編ドラマ：webドラマ制作に於ける音響定義を理解すること。作品に沿った音楽、効果音の選定ができること
第13回	作品制作2 Web用短編ドラマ：webドラマ制作に於ける音響定義を理解すること。作品に沿った音楽、効果音の選定ができること
第14回	作品制作2 Web用短編ドラマ：アフレコ（吹き替え）に於けるマイクの選定、アフレコ収録の定義を理解すること
第15回	作品制作2 Web用短編ドラマ（Mix）：ドラマに於けるMixの定義を理解すること。Web基準に則った音量に収めることができる。

2022年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
実習・演習 3 (RADIO)											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	180	単位	6
担当教員	濱野 歩・宮下博才・江沢亜美			実務経験	有	職種	放送ミキサー・ラジオDJ・ディレクター				
担当教員紹介											
FMラジオ局の社員として約16年間、ラジオ局内で様々な業務（アナウンサー・ラジオDJ・ディレクター・プロデューサー・AD・広報宣伝・SNS担当・番組編成・営業）を担当した実務経験を持つ。喋り手としてはアーティスト、俳優、スポーツ選手など約1000人以上のインタビューを経験。											
授業概要											
ラジオ番組 企画～完成までのプロセスを理解する。 演習と連動し、演習で規格した番組を放送に準じた内容で制作できる事を目的とする。 1 年次に制作した番組よりも完成度が高く、実際に放送出来る番組を制作する。											
到達目標											
番組の企画、制作、台本作り、配信、エンジニアリングなど全ての工程ができるようになること。機材に強くなることも大切であるが、どのような番組をつくるため、どのような技術やセンスが必要か常に考えながら行動にうつれるようになることも大切である。1年次では学内の基本的システムをマスターする。そして学科より外部の学生、先生スタッフへのインタビュー、または学外や地域と連携した番組作りにも挑戦してコミュニケーション力も養っていく。											
授業方法											
この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。他人が発する情報をどのように受けとめ、理解するか、さらにそれをどのように伝えていくかを意識しながら、自分たちで企画した番組を制作して行く。 放送基準・倫理に沿った番組制作し完成させる											
成績評価方法											
成果発表 平常点	80% 20%	成果発表を総合的に評価する 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
実習時数の 4 分の 3 以上出席しない者は単位を得ることができない。											
教科書教材											
必要に応じて適宜資料を配布する											
回数	授業計画										
第1回	オリエンテーション：ラジオスタッフ専攻演習 概要説明										
第2回	15分番組制作1：（演習と連動） 企画会議、企画書制作										
第3回	15分番組制作2：（演習と連動） 台本作り1 及び打ち合わせ、素材準備										
第4回	15分番組制作3：（演習と連動） 台本作り2 及び打ち合わせ、素材準備										
第5回	15分番組制作4：出演者打ち合わせ及びリハーサル										

2022年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
実習・演習 3 (RADIO)	
第6回	15分番組制作5：本番 円滑な収録の流れを実践できるようにする
第7回	15分番組制作6：試聴会及び次回にむけての問題点(課題)
第8回	30分多人数番組制作1：(演習と連動) 企画会議、企画書制作
第9回	30分多人数番組制作2：(演習と連動) 台本制作1 及び打ち合わせ、素材準備
第10回	30分多人数番組制作3：(演習と連動) 台本制作2 及び打ち合わせ、素材準備
第11回	30分多人数番組制作4：(演習と連動) 台本制作3 及び打ち合わせ、素材準備
第12回	30分多人数番組制作5：出演者打ち合わせ及びリハーサル
第13回	30分多人数番組制作6：本番 円滑な収録の流れを実践できるようにする
第14回	30分多人数番組制作7：試聴会及び次回にむけての問題点(課題)
第15回	ラジオCM制作：CM制作、整音作業・ジングル(サウンド・ステッカー)制作

2022年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
実習・演習 3（REC）											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	180	単位	6
担当教員	倉本淳二・伊藤優子・篠原麻梨			実務経験	有	職種	レコーディングエンジニア				
担当教員紹介											
1986年、銀座スモーキースタジオでレコーディングエンジニアとしてのキャリアをスタートし、現在は、アライヴレコーディングスタジオを拠点に、フリーランスエンジニアとして活動中。 また、シンガーソングライターの大柴広己と共に“ZOOLOGICAL(ゾロジカル)”という音楽レーベルを運営している。											
授業概要											
レコーディングエンジニアとして必要な知識の再確認し、さらには詳細について掘り下げ理解していくことを目的とする。基本的には演習と連動した項目をスタジオにて実践していく。エンジニアリングの目的は良い音である。良い音とは何か、自分で発見し、体験して行く事がなければ、形式だけの音となってしまうので、可能な限りのマイクの取扱方法に熟知し、楽器側の状態も考慮に入れた音作りが出来るようになることが大事である。また、音を言葉で解説する力も身につける。											
到達目標											
演習で学んだ下地を元的に的確なエンジニアリングが出来るようになる。実習2のレコーディングの音作りを掘り下げていく。マイクロフォンの名称から各種特性を覚え、楽器やアーティストごとに適切なマイク選びができるようになる。クライアントの細かい注文にも対応できるよう、わずかの音の差にも気づき処理出来るようになる。また仕事全体の流れを円滑にできるよう、アーティストの意思を先読みし、コミュニケーションが適切に取れるようになることも目標である。											
授業方法											
必要に応じてプリント資料を適時配布する。アーティストに来校してもらい実習する際はアーティストの立場や作りたい音をよく考え、アーティストに信頼されるエンジニアになるための態度も学ぶ。											
成績評価方法											
平常点	80%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
課題	20%	課題の提出を総合的にみて評価する									
履修上の注意											
学生が主体的に行動するが、注意点や修正箇所があればその度指示する。 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
必要に応じて適宜資料を配布する											
回数	授業計画										
第1回	4リズムセッティング練習：指定された録音準備が迅速かつ正確にできるようになる										
第2回	スタジオシステムB：共有ブースや複数のシステムが存在するBスタジオのシステム確認										
第3回	スタジオシステムC：SSLにおける、全てのルーティングパターンを理解する										
第4回	ボーカルエディット実習：録音実習やミックスに備えて編集スキルを向上させる										
第5回	ProToolsオペレート実習：実際の録音作業を想定して録音操作技術を向上させる										

2022年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
実習・演習 3 (REC)	
第6回	マイキング研究リハーサル1：各班マイキング研究1のセッティングをやってみて、プランの確認をする
第7回	マイキング研究リハーサル2：各班マイキング研究2のセッティングをやってみて、プランの確認をする
第8回	マイキング研究リハーサル3：各班マイキング研究3のセッティングをやってみて、プランの確認をする
第9回	マイキング研究1(Apf)：最初のプランから始め、要望に応じてセッティングを変化させる
第10回	マイキング研究2(Drums)：最初のプランから始め、要望に応じてセッティングを変化させる
第11回	マイキング研究3(Vo&AG)：最初のプランから始め、要望に応じてセッティングを変化させる
第12回	コンプ練習帳：コンプレッサー/リミッターを代表とするダイナミックスを教材を基に実習
第13回	アーティスト制作プロジェクト：制作者の意図に沿った作品を共同で収録する
第14回	ミックス実習：バランス、音色・音場・音量調節、定位、等、様々な要素を解説
第15回	アナログテープレコーダー：テープのローディングや手切り編集ができるようになる